

生食用ブドウ新梢管理装置の開発

生食用ブドウ棚の表面上において、接触部材を新梢から発生する副梢の茎葉に接触させながら移動させる装置を開発しました。この装置を使用することで、果実品質への影響もなく、副梢の伸長を抑制でき、副梢管理にかかる摘芯作業がほとんど不要となります。

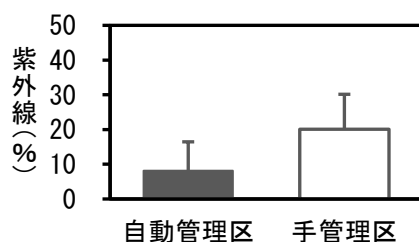
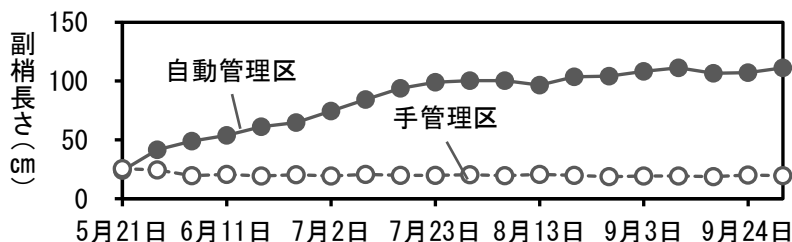
新梢管理装置の概略



稼働時間: 昼夜問わず24時間
接触部材動作サイクル: 20分
(5分20秒動作→14分40秒休み)
速度: 1cm/秒
接触回数: 3回/時間

新梢管理装置の導入効果

- 副梢を100cm程度に抑えることができる。棚下環境は果実品質に影響を与えない程度の差。



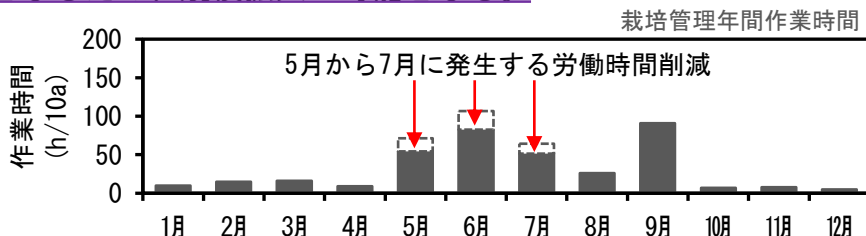
- 果実品質は、手管理と変わらない。

果実品質に及ぼす影響 (R6)

試験区	果房重 (g)	粒数/房 (個)	果重/粒 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	果皮色 (C. C. 値)	裂果粒数 (個)
自動管理区	357	28	12.5	20.1	0.67	9.3	2.4
手管理区	306	27	11.8	21.4	0.61	9.8	1.8

- 摘芯作業は、ほとんど不要となるため、規模拡大が可能となる。

摘芯作業時間
手管理区 72.2 h/10a
↓
自動管理区 1.9 h/10a



新梢管理装置の設置条件等

- 設置可能なハウスは、十分な強度があり、棚上に30cm以上の空間が必要。
- 装置稼働前に新梢をしっかりと棚付けしておく必要がある。
- 本装置は、農業技術センターが開発した特許を利用し、(株)誠和と共同開発したものである。
- 令和7年2月に(株)誠和から販売開始(想定価格約100万円/10a 施工費・電気工事費含まず)。